

## 2024 年度 教職課程自己点検・評価報告書

組織名称	教職センター委員会
------	-----------

本年度の「点検結果／取り組み状況」を端的に記入していただき、これに基づいて「評価 (S/A/B)」「評価の理由」を記載し、その時点での「課題・今後に向けて」について記載してください。なお本学の学部・学科は教職課程の取得を主たる目的としていないため、「評価の視点」において学部・学科の教育目標等に整合しないことも想定されます。その場合は評価を「A」とし、その旨記入して下さい。  
 <自己評価基準>  
 S:特に評価できる取り組みがあった A:特に問題はない B:更なる改善が必要な点がある

教職センター委員会は、課題・目標設定のあり方をふくめて今後の点検・評価活動の方向性も検討

No.	点検・評価内容			D	C		A・P	教職センター委員会 記入欄	
	基準	点検・評価項目	評価の視点	点検結果／取り組み状況	評価 (S/A/B)	評価の理由	課題・今後に向けて	点検・評価結果	重要課題として 抽出
<b>2024年度</b>									
①教育理念・学修目標	1	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画が、具体的かつ明確に設定されているか。	設定されている	A	各学科において教育理念及び計画を適切に設定し、教職センター会議において確認している。	今後も教育目標及び計画について、各学科に対して定期的に確認を促す。	教育目標及び計画は、各学科において適切に設定されている。学生の意見の集約については限定的ながらも実施されており、近年の教員養成政策を踏まえた目標・計画となっている。毎年、教職センター委員会で見直しが行われており、全学的にも組織的な対応がなされている。ただし、学生からの聞き取りは今後さらに充実させる必要がある。	-
	2	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画において、学生の意見や近年の教員養成政策等を参考にしているか。	主に教員養成政策について確認し、一部の学科では指導教員を通して意見の集約を行っている。	A	主に教員養成政策等に照らし合わせ齟齬のないものになっているかを確認していることで、適切な目標・計画を設定している。	本学は教員養成を主たる目的としていないため、理念・計画の策定時に、教職課程に限って学生の意見を聞くことは稀であるが、必要に応じて聞き取り等を行うことも検討する必要がある。	-	
	3	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画について、定期的に見直しを実施しているか。	教職センター委員会において、定められた時期に、各学科に対して見直しを依頼している。	A	教職センター委員会において毎年度の確認する体制を整えている。	引き続き、教職センター委員会において各学科に依頼する。	-	
②授業科目・教育課程の編成実施	4	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	他学科と共通で開設している教職科目について、学生が履修できるよう時間割編成等の調整を実施しているか。	全学の時間割編成委員会において時間割調整を行い、学生が教職課程の授業を履修しやすいように調整している。	S	調整ができており、時間割上、履修については問題なく設定できている。また、一部の科目で履修年次を下げたこと、卒業単位に含まれる科目を増やしたことで、学科学科としての整合性をより重視しつつ、学生の過度な負担を軽減した。	科目配置は常に変更されるため、毎年度、見直しをしていく必要がある。学生から聞き取りするなどして、教職課程の履修の過度な負担を下げ、自主的な学修の時間を確保する必要もある。	全学で組織的に対応しており、見直しが適切に行われている。学生からの聞き取りも十分に行う必要がある。	○
	5	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備 (ICT環境／模擬授業用の教室／関連図書など) は整備されているか。	ICT環境、模擬授業用の教室、関連図書等の教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備は十分に整備されており、また整備するための体制も整っている。基本的に全ての教室にICT環境が整っており、ICT活用が可能である。	A	適切な施設・設備が整備されている。	特にICTに関しては動きが早いいため、教育実習経験者の意見も活かして適宜見直しを行う必要がある。	基本的な施設・設備は整っている。図書については引き続き蔵書を増やしていき、必要に応じて学生のニーズも把握することが求められる。	-
	6	教育課程の体系性	法令及び学科の目標等に沿った必要な授業科目が体系的に開設されているか。	開設されている	A	各学科のカリキュラムの見直しの際に、法令及び学科の目標に沿った科目配置になっていることを確認している。	今後も適切な科目を体系的に開設できるよう確認できる体制を保持する。	毎年見直しの機会があり、必要な科目が適切に開設できるよう体制が整えられている。	-

## 2024 年度 教職課程自己点検・評価報告書

組織名称	教職センター委員会
------	-----------

本年度の「点検結果／取り組み状況」を端的に記入していただき、これに基づいて「評価 (S/A/B)」「評価の理由」を記載し、その時点での「課題・今後に向けて」について記載してください。なお本学の学部・学科は教職課程の取得を主たる目的としていないため、「評価の視点」において学部・学科の教育目標等に整合しないことも想定されます。その場合は評価を「A」とし、その旨記入して下さい。  
 <自己評価基準>  
 S:特に評価できる取り組みがあった A:特に問題はない B:更なる改善が必要な点がある

教職センター委員会は、課題・目標設定のあり方をふくめて今後の点検・評価活動の方向性も検討

No.	点検・評価内容			D	C		A・P	教職センター委員会 記入欄	
	基準	点検・評価項目	評価の視点	点検結果／取り組み状況	評価 (S/A/B)	評価の理由	課題・今後に向けて	点検・評価結果	重要課題として 抽出
		7 ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	開設している授業科目において、ICTの活用そのものを扱うような内容を含む授業を実施しているか。	実施している	S	「教育方法論」の授業において、学校現場でも使われることの多い「ロイノート」を利用可能にし、また科目の指導法においても使用できるような体制を整えた。その他、本学のLMSであるWebclassを使用したり、DLサーバーを用いた授業運営を実施したりするなどして実践的な指導の場を用意している。	変化の多い分野であるため、今後も学校現場のニーズに着目しつつ、適切に対応する。	学校現場の実態に合わせた対応がなされている。引き続き、必要な体制の構築を続けていただきたい。	-
③学習成果の把握・可視化	17 教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	教員の養成の目標の達成状況（学修成果）が、各学科の教育目標等と関連づけられながら、学生に示されているか。	教員養成の目標は各学科の教育課程と関連づけられ、公開されている。一部の学科においては、必要に応じて学生にヒアリングを行っている。	B	本学は教員養成を主たる目的としていないため、学科の教育目標と教職課程、それぞれの達成状況については必ずしも整合しない。また、学習成果の把握は本学全体の課題でもある。	課題克服のため、全学的に学生の学習成果の可視化システムの準備が進められているが、各学科の学修成果と教職課程の学びの関連性を明示的に示すような可視化システムの構築が課題である。	全学的な課題ではあるが、各学科における学修成果と教職課程の学修成果を有機的に結び付けられるような目標設定の構築も検討していただきたい。	○	
⑥教職指導（学生の受け入れ・学生支援）	27 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	教職課程を履修する学生のために、教職課程や履修等に関して積極的な情報提供を行っているか。	教職センターと各学科におけるガイダンスにおいて情報提供を行っている。教育に関連する授業、ゼミにおいても同様に情報提供を行っている。	A	本学の特性上、必ずしも積極的に教職課程履修者を増加させることは目的ではなく、履修希望者が適切に支援を受けられるようにすることが重要である。	対応については学科ごとの対応にはばらつきがある。各学科における自覚的な情報提供があることは、学生の学修に対する心理的安全性の確保にも資するものである。	教職課程履修希望者が適切に学修できるよう、学生の意見も参考にしながら、また他学科の方法も相互に参考にしつつ、適切に対応していただきたい。	-	
	28 学生に対する履修指導の実施状況	教職課程を履修している学生に対し、その意欲や適性を踏まえた履修指導を行っているか。	学科によってばらつきがあるが、基本的には学生が自主的に管理し、ガイダンスを中心に教務課資格係がそれらをサポートしている。学科によって、指導教員や関連授業等で対応している。	A	本学の特性上、必ずしも教職課程履修者への直接的な履修指導は行われていないが、履修者が適切に支援を受けられる体制が整備されている。	今後も現在の体制を維持しつつ、特に支援が必要な点などがあれば教職センター委員会を通じて働きかけを行っていくことで、履修指導を充実させる。			
⑦関係機関等との連携	31 教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	教育実習を含め、学校現場等における体験活動等を通じた実践的指導力を育成する機会を設けているか。	教育実習については、教職課程履修学生の指導教員を中心として、教職課程に直接関わらない教員も含めて受け入れ校の訪問を行い、実習状況の視察・指導、受け入れ学校との情報交換を行っている。	A	主に教育実習を通じた指導・連携を実施している。学科によっては他の実習を読み替えることで専門性の向上を図るなどの取り組みを行っている。	教育実習以外の体験活動等については、情報提供は行っているが、必ずしも積極的に実施しているとは言えない。ニーズを見極めながら、必要に応じて検討する必要がある	教育実習については適切に対応されているが、その他の体験活動については学生の状況等についても聞き取りなどを行い、検討していただきたい。	-	